

新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html>

メールアドレス chuou@ac.city.myoko.niigata.jp

No. 203

2016 (平成28) 年10月28日

「妙高市民の心」応募作文の紹介

「妙高市民の心」作文が二～六年生の夏休みの課題でした。その中から各学年二点を応募しました。最終審査に残ったのは、次の4名です。

3年 堀川昇太郎さん 4年 今井陽果さん 5年 東條絢音さん 6年 眞田佳乃さん

応募作文はいずれも素晴らしい内容ですので、応募作文を御紹介いたします。

やさしい大きな声で

2年 古川 大貴

ぼくには、九十六才のひいおじいちゃんがあります。

ひいおじいちゃんは足がよわくなってきて、あるく時につえをついたり、どこかにつかまったりしないといけません。

おぼんにおはかまいりに行った時、道がでこぼこしていたので、ぼくがひいおじいちゃんの前をあるいて「こっちだよ」と道あんないをしました。

ひいおじいちゃんは、耳も聞こえにくくなっています。長い話をするのがむずかしくても、「おはよう」「おやすみなさい」「行って来ます」「ただいま」のあいさつはきちんとしよう、とおかあさんとやくそくしました。

ぼくがあいさつをすると、ひいおじいちゃんはいつもわらってこたえてくれます。だからぼくも、元気で気もちのよいあいさつをしようとおもいます。

みんなでたべるとおいしいね

2年 吉原 悠太

ぼくは、たべることが大好きです。

きれいなものはありません。

学校のきゅうしょくも、まい日おかわりをするくらい大好きです。

いえでごはんをたべる時に、前はテレビを見ながらたべていて、いつもちゅういされるので、いまはテレビをけしてみんなで話をしながらたべています。

お父さんはこうたいばんのしごとなので、お母さん

と二人でたべることが多くて、すこしさみしい時もあります。

この前、お母さんが入いんして、夕ごはんは、ばあちゃんのいえでたべました。ばあちゃんはぼくのすきなものを作ってくれておいしかったけど、やっぱりすこしさみしかったです。

お母さんも一人でたべるごはんはおいしくないと言っていました。

やっぱりぼくは、お父さんと、お母さんと三人でたべるごはんが一ばんおいしいです。

「あらいまつり」にさんかして

3年 堀川 昇太郎

夏休みに、ぼくは、「あらいまつり」にさんかしました。

夏休みに入ってすぐ、子ども会のみんなとサンライズの前で、おどりの先生に来てもらって練習をしました。先生からは、「もっと元気よく」と、言われました。ぼくは、あらいばやしのきょくがすきです。ひさしぶりにこのきょくを聞いたらのっちゃいました。本番が楽しみになりました。

あらいまつり当日、お母さんと「大づなかつぎ」を見にいきました。「大づなかつぎ」には、お父さんが町内会の人とさんかしていました。あついで、みんな大へんそうでした。大づなは、ぐねぐねと道路いっぱいすすんで行きました。かついでいる人たちは、力水なのか、あせなのか分からないくらいびしょびしょでした。一生けんめいで、楽しそうでかつこよかったで

す。

夕方からは、ぼくの出番です。朝日町の子ども会は、会長さんたちが用意してくれたミニオンのかそけいおどりました。「だし」は、町内のやくいんさんが何日も前から用意してくれました。そこにぼくたちの絵をかざってもらいました。おどりでは、練習の時にあったことを思い出して、ほかの町内の子どもたちに負けないように大きな声を出しながらおどりました。みんな楽しそうな顔で一生けんめいおどったので、どかしように入りました。うれしかったです。

「あらいまつりがはじまったのは、お父さんが生まれた年からだよ。」

と、お父さんが言うてくれました。ぼくも大きくなったら大づなをカッコよくかつぎたいです。

これからもずっとあらいまつりがつづいてほしいです。みんなといっしょにさんかしたいです。

家ぞくで食べるおいしいごはん

3年 寺島 莉菜

家ぞくでごはんを食べるといいことがあります。

それはたまにわたしとお母さんでごはんを作ったときに、お父さんたちが「おいしいね」と言うてくれることです。わたしはそれを聞いて、とてもうれしい気持ちになります。また、おばあちゃんがごはんを作ってくれたときに、わたしが「おいしいね」と言うとおばあちゃんもにこにこわらってえ顔になります。わたしは、そういうえ顔が大すきです。一人で食べるより、家ぞくで食べたほうがおいしいし、楽しいということが分かりました。なぜかという家ぞくとごはんを食べていて、いろいろな楽しい話ができるし、一人のときよりもごはんが何ばいもおいしくかんじることがあったからです。

一人でごはんを食べると、話をしている聞いてくれる人がなくてさびしいです。なので、家ぞくで食べるとすごくいいと思いました。家ぞくで食べた方が、みんなが一日あったことなどを話したりしてとてもにぎやかだからです。

また、テレビをつけてごはんを食べると、話している人の声も聞こえないです。テレビを消すと、話している人の声もよく聞こえます。わたしの家は、ごはんを食べる時は、朝ごはん、お昼ごはん、夜ごはんかん係なくテレビを消すというルールがあります。それを守るために自分でごはんを食べるときにはテレビを消すというのを意しきして、がんばってとりくんでいます。たまにすきなテレビがあると、見てしまうときがあります。なので一生けんめい自分でいしきしています。これからも毎日ルールを守りたいです。

家ぞくでごはんを食べるときは一日で大切な時間です。家ぞくとごはんを食べるときは、いっぱい話したりして家ぞくと食事の大切にしたいです。

ごみを拾おう

4年 今井 陽果

わたしは自分のゴミじゃないゴミでも拾うようになっています。きっかけはわたしの友達です。

ずっと前に、友達とわくわくランドで遊んでいた時に、他の子があめを食べてそのからをポイッと捨ててそのまま行ってしまいました。わたしは気にもしなかったけど、いっしょにいた友達がそのゴミを拾ったので、わたしは、

「それ〇〇くんの捨てたゴミだよ。」と言いました。それならわたしの友達は、

「いいの。家に帰って捨てればいだけだから。」と言っけてポケットに入れていました。

それを見てわたしはすごいなと思ったのと同時にゴミを拾わなかった自分がなさげなく感じました。

「ゴミを捨てた子も、悪いけど、見て見ぬふりをしたわたしも悪かったなあ。」と思いました。本当は注意できればいいけれど、なかなかゆう気ができません。けど落ちてるゴミを拾うことはかんたんにできます。

ゴミが落ちてる事に気づいているのに、知らない顔して遊んでいるよりも、拾ってきれいな所で遊ぶ方が気持ちがいいです。

ちょっとした事だけど、やるとやらないではちがうという事です。

他にも、同じ様にゴミを拾っている人もいると思うけど、わたしの友達が教えてくれた様に、わたしも、他の人に教えたいと思いました。

ゴミを拾うだけではなく、わたしはいつも自分のゴミを入れるふくろを持って遊びに行くようになっています。そうすれば、家に帰ってまとめて捨てるだけです。

一人一人がゴミを拾うといういしきをもっていれば、ゴミがないきれいな妙高市になります。そしてきれいな、妙高市がこの先もずっとつづくといいなあと思いました。



自分から声をかけよう

4年 東條 藍子

わたしには、やさしいおじいちゃんがあります。元気だったときは、ゴルフをしたり、わたしをどこにでも連れて行ってくれたりしました。

そのおじいちゃんが、スキーで事故をおこして体が不自由になってしまいました。しゅじゅつをしても治らず、今も、不自由でつらそうにしています。それでもわたしが遊びに行くとおいしいごはんを作ってくれるやさしいおじいちゃんです。

わたしは、おじいちゃんのために何かできることはないか考え、おじいちゃんに聞いてみました。おじいちゃんは、

「あこが顔を見せてくれるだけで元気が出るよ。」
と言うだけでした。でもわたしは、おじいちゃんの役に立ちたくてもう一度考えました。

おじいちゃんが歩くとき、手をつないでみました。

おじいちゃんは、

「とっても楽だよ。」

と言ってよろこんでくれました。

おじいちゃんがズボンをはけなくて、こまっているところを見たときは、すぐにおじいちゃんのところに行って、おてつだいをしました。

「ありがとう。」

と言ってもらい、おじいちゃんの力になれたことがとてもうれしかったです。

おじいちゃんは、こまっていることがいっぱいあることに気づきました。わたしにもできることがたくさんあると思います。

体の不自由な人に手をさしのべる時には、てつだってほしいことを聞くことも大切だけど、相手の立場になって気づいてあげることも大切だと思います。

おじいちゃんにはいつまでも元気でいてほしいので、これからも、わたしにできることをしていきたいです。そして、お年よりや体の不自由な人には、自分から声をかけることを心がけたいです。

笑顔のあいさつ

5年 東條 絢音

わたしは、よく登校中にお姉ちゃんに、

「あいさつしっかりして。」

と、言われていました。でも、わたしは、あいさつをするのがはずかしく、「あいさつをして」と言われてもすることができませんでした。

登校中に散歩しているお婆さんが、

「おはよう。気を付けてね。」

と、言ってくれました。そのときは、とってもうれし

かったです。だから、私も元気に

「おはようございます。」

と、言ったら、お婆さんは、とてもニコニコしていました。それから、いろんな人にあいさつができるようになりました。あいさつを続けていくと

「いつも元気だね。」

「えらいね。」

と、声をかけてくれる人が多くなりました。家にくるお客さんにもあいさつをするようになり、

「こんにちは。えらいねえ。」

と、言われるたびに、とてもうれしくて、体だけでなく心も元気になりました。

わたしは友達の家に行ったときも、友達のおじいちゃんなどにあいさつをしています。そうすれば、その家の人も自分もいい気持ちになると思います。わたしは、あいさつは人の気持ちをよくしたり元気にしたりとてもいいことだと思います。

学校では、どうしたらあいさつがよくなるか考えて実行しています。あいさつをした人にシールをあげたり、あくしゅやハイタッチなどたくさん工夫をしています。でも、あいさつをしてくれる人の中にも声が小さい人やあいさつをしない人もいます。そうすると、あいさつをしなかった人の一日は、とても暗い一日だと思います。だから、みんながいいあいさつができるといいと思います。

わたしは、自分からあいさつすればみんなが仲良くなるし、友達も増えると思います。だからこれからもあいさつを続けたいです。

勇気を持って参加しよう

5年 岸田 実佳子

私は、小さいころから、地域の活動に進んで参加するようにしています。みんなで地域をきれいにすることが楽しくて、大好きです。

朝早く起きて、地区の草とりに参加しました。ふだん使われていないその場所は、草がぼうぼうとしていました。百人ぐらいの人がいっせいに草とりをしたので、草の山がたくさんできました。草とりをしていると周りの大人の人が、

「がんばっているね」「えらいね。」

などと声をかけてくださったので、最後までいい気持ちでできました。草とりが終わった後、よごれた手を見て、よごれた分、がんばったんだなと思いました。これがきっかけで、地域のごみ拾いや他の行事にも進んで参加したくなり、するようになりました。

五年生になって、かんきょう・美化委員会に入りました。かんきょう・美化委員会は、希望する人が少な

くてじ味な仕事が多いけれど、花を植えたり、緑の羽根ぼ金に協力したりすると、役に立っててすがすがしい気持ちになります。特に、緑の羽根ぼ金では、一人でも多くの人に協力してもらえるように、声を出しました。一日目ははずかしくて大きな声が出せなかったけれど、二日目は、ぼ金してくれた人に、「ありがとうございます。」と言えたので、気持ち良かったです。

自分から進んで協力すると、みんなが笑顔になり、話をしたことのない人と話ができるので、ラッキーだと思います。そして、みんなで少しずつ協力するだけで、地球がどんどんきれいになると、思います。

私は、自分から協力する他に、自分から声を出す勇気も必要だと思います。これからは、はずかしがっていた今までの自分に負けずに、勇気を持って、積極的に協力していきたいです。

ナイターソフトボール大会

6年 伊井 唯希

ぼくは、小学四年生のときに地域のソフトボールチーム「獺ちゃんズ」入り、ソフトボールを始めました。毎年「パパギヤルナイターソフトボール大会」に出場しています。

夏の大会に向けて、毎週日曜日にぼくと母は練習に参加していました。母は野球をやったことがなく、運動が苦手なので、最初は全身筋肉痛になり、とても大変そうでした。でも、子どもと野球を一緒にできることを嬉しいと言って、練習をがんばっています。ぼくも母と野球するのは楽しいです。親子で一つの目標に向かってがんばれるので、とてもいいと思います。

ぼくが五年生のとき、「獺ちゃんズ」は夏の大会で準優勝しました。ぼくはサードを一生懸命守りました。これがきっかけで、今は妙高市のジュニアチーム「ランニングジュニア」で野球をやっています。そこでもサードを守っています。

今年最後のパパギヤルの大会では、一回戦で負けてしまいました。悔しさもありますが母達とみんなで力を合わせて楽しくソフトボールができたのでよかったです。



パパギヤルの「ソフトボールを通じて地域間の交流を深めるとともに、地域住民の健康体力づくりを」という目的どおり、母の体力づくりにもなり、友達もたくさんできました。

パパギヤルの大会に参加したことを通して、母と一緒に行動することが多くなり、これまで以上に母と話をすることが増えました。また、ぼくには「野球」という大切なものができました。野球の上達のためにきつい練習もがんばろうと思います。母も応援してくれ、キャッチボールの練習相手になってくれます。中学校に行っても野球をがんばりたいと思います。

大切な地域行事

6年 眞田 佳乃

私は、地域の行事に参加するのが苦手です。なぜかという、一年生のころ引っこしてきてなかなか友達がいなかったからです。六年生になっても、よくしゃべる人は数人しかいません。

私の地域には運動会があります。地域行事の一つの運動会を例にしてなぜ、参加するのが苦手かを考えてみると、理由は二つあります。

一つ目は、子どもの数が少ないことです。周りに大人は多いです。しかし、子どもの人数が少なく同じ学年の人がいないので、あまり話すことができません。

二つ目は、赤組と白組に分かれることです。当然、赤組と白組に分かれるのですが、私の場合は同じ学年の人が私合わせて、三人しかいません。なので、赤と白に分かれると一対二になります。これは、一つ目の子どもの人数が少ないことにも、つながります。

では、どうすれば少しでも、地域の行事を楽しむことができるのかを考えてみました。

まず、自分から話しかけることです。私から話しかけることができれば、少しでも話せる人が増えると思ったからです。自分から話しかけるのは苦手だけれど、ほんの少し勇気を出せばもっと楽しめると思ったからです。

二つ目は、手本となり協力することです。私は、最高学年なので一～五年生の手本になれるように競技を一生けんめいやろうと思います。みんなで協力すれば勝っても負けてもきっと楽しくなると思います。

九月に地域の運動会があります。「協力すること」「自分から話しかけること」をじっせんして、私もみんなも楽しい地域行事にしたいです。そのために、苦手なことを少しずつこくふくできるようにがんばります。

これからも、家族でいろんな地域行事に参加して、地域の行事を大切にしていきたいです。

